



心理学、教育、地学、動物学、言語...  
普段読む物語とは違った世界をお届けします。

# 開拓 新書



自分の個性が  
好きになる。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（ブレイディみかこ／著 新潮社）  
イギリスに住む「ぼく」が通うのは、「元・底辺中学校」。人種差別や経済格差、地雷だらけの多様性やジェンダーを、著者の母ちゃんと一緒に悩み乗り越える、ノンフィクション。主人公の意見や感覚には、毎度「本当に中学生?!」と驚かされる。同世代の私たちの常識さえ軽々と覆す、親子の成長物語。  
(宇都宮南高校 Mさん)

## 『世界でいちばん素敵な鉱物の教室』 (宮脇律郎／監修 三オブックス)

Q. なぜ景色はこんなに綺麗なんでしょう？  
A. 鉱物が綺麗だからですよ。  
美しいものには毒がある？

いえ、美しいものには「鉱物」がある！

全80種の美しい鉱物。  
名前の由来やちょっとした豆知識。奇妙で幻想的な鉱物。皆さんもこの鉱物の教室を受講してみては？

(宇都宮東高校 Tさん)



「hiraeth」  
「разлюбить」  
「Δ<sup>α</sup>Λ<sup>β</sup>>β」

## 『翻訳できない世界のことば』 (エラ・フランシス・サンダース／著 前田まゆみ／訳 創元社)

読めますか？ 読めませんよね。  
では意味がわかりますか？ わからないと思います。

世界中の言葉の中からその他の言語では表せない単語を集めたこの本、言葉にできない気持ちに名前を与えてくれる語と出会うかもしれません。最初の三つのことば、あなたもきっと感じたことがあると思います。  
(宇都宮高校 Tさん)



最も身近な美しさ



## 『10代から身につけたい ギリギリな自分を助ける方法』 (井上祐紀／著 KADOKAWA)

日々の生活の中で起こる様々な「生きづらさ」に悩まされてはいませんか？この本で、様々な「つらさ」や「不安」を和らげるヒントを探してみてください。(矢板東高校 Bさん)



まずは  
自分を助けよう



誰でもカラスが  
好きになる…!?

## 『カラスの教科書』 (松原始／著 講談社文庫)

カラス好きの動物行動学者が彼らに迫ってみると、キュートで微笑ましい生態が明らかに。「カラスって食べられるの?」、「みんなに黒づくめで暑くないの?」といったみんなの疑問が詰まっている! かわいい挿絵とユーモア溢れる語り口に惹き込まれ、カラスが嫌いな人も自然と興味が湧いてくる一冊。  
(宇都宮東高校 Yさん)

